

# うえだ 環境市民会議 News

第30号  
ニュース

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

この情報誌は自治センター、公民館、図書館、情報ライブラリー、市生活環境課の窓口で配布しております。

発行:うえだ環境市民会議

〒386-8601 上田市大手一丁目11-16

上田市生活環境課内

電話:0268-23-5120

FAX:0268-22-4127

E-mail seikan@city.ueda.nagano.jp

## 地球温暖化防止に向けて

うえだ環境市民会議議長 山口春香

続けて議長をさせて頂くこととなり、微力ではございますが皆様に支えていただき会の運営を進めて参りますのでよろしくお願いたします。

7月にイタリアに於いて「第35回主要国首脳会議(G8サミット)」が開催され、急激に進む地球温暖化に関しては「先進国全体で2050年までに温室効果ガスの排出量を最低80%削減する」との長期目標が初めて合意されました。一方、中国などの新興国が参加する「主要経済フォーラム首脳宣言」では削減数値は盛り込めませんでした。しかし、地球温暖化の深刻な影響を回避するため、産業革命以来の気温の上昇を2度以内に抑えることの重要性、世界全体の排気量を2050年までに相当量削減する目標設定に取り組むことでは一致された様です。

ところで当市に於いて進めてまいりました(仮称)「上田市レジ袋削減推進連絡会」

は上田消費者の会をはじめ21団体のご協力のもとマイバック持参運動に取り組み「市民・事業者・行政」が協働し、持参率調査や検討会を重ねて参りましたが、9月中旬頃に連絡会設立の予定です。なお、昨年より進めてまいりました千曲川流域(現在小諸市から飯山市までの市町村)でのレジ袋削減に向けての協議会設立は9月末を目途の予定です。

レジ袋削減の目的は、地球温暖化防止の1つとしてCO<sub>2</sub>の削減、ごみの減量等限られた資源を大切にし、よい環境をつくることです。誰にもできることですので、一人ひとりができることから実践し「一人の100歩」ではなく、「100人の1歩」を大切にしたいものです。美しい地球、豊かな環境を次世代に残すことが私たちの責務です。少し「ずく」を出す「我慢」する「もったいない」という気持ちを忘れないで、物を大切にすることが、よい環境づくりの1歩です。

## うえだ環境市民会議に参加して

東日本鉄道 OB 会上田支部 池田良行

環境問題はいまや地球を守るための世界的課題であり、私達一人ひとりが自然や環境汚染に関心を持って生活することがどんなに大切かを自覚しなければなりません。

明治21年に旧国鉄信越線長野・軽井沢間が開通しました。信越線(現しなの鉄道)の上田付近は千曲川沿いの上田城よりずっと低地を走っていますが、当時もう1案があって水害や小諸までの急勾配を避けるため上田の山側(高台)を走る案があったそうですが、蚕都上田では、機関車が燃やす石炭の煙害で桑(当時桑畑が多かった)が汚染され養蚕に影響が出るとして、この案に反対したという話を老人から聞いたことがあります。120年以上前の話ですが、上田市民は古くから自然と共生するための環境汚染に強い関心を持っていた事が伺えます。

私共「日本鉄道 OB 会連合会 東日本鉄道 OB 会上田支部」は、市生活環境課に参り「うえだ環境市民会議」についてお伺いしたところ、特に JR 上田駅前広場の環境整備作業を実施しており高齢者も参加できることを知り、事業計画の一環として市内在住の会員が主体となって昨年

から参加しておりますが、参加してみると市民会議議長・役員の皆さん・市職員や参加者を含め皆奉仕の心を持った人達の集いであり、個人で参加しても何の違和感もなく楽しく作業ができることに感銘致しました。

また、8月8日には母袋市長が「この美しい自然や環境を守る行動を自ら提案し市民一人ひとりをつなぐ個人と個人のネットワークは上田が先進的であり、全国に発信しましょう」と励ましのお言葉をいただき感激いたしました。最後に参加者全員で駅前広場の「打ち水大作戦」を実施しましたが、一時的とはいえ外気温が2度ほど低下しその効果を実感しました。

私共はこの会に参加して大変良かったと思っております。会員は高齢ではありますが後世のためにも「恵まれた豊かな自然と共生し安全と健康溢れる街づくり」を目指して今後とも頑張って継続参加したいと思っております。

### ▼駅前清掃



## 初参加・上田駅前広場清掃と打ち水大作戦 上田市勤労青少年ホーム館長 若山昭夫

勤青ホームの利用者協議会では、例年、早朝ボランティア活動としてホーム周辺や城跡公園清掃とアレチウリの駆除活動を続けてきた。今年は、活動を通じて地域の皆さんとの結びつきを作っていけるように願って、うえだ環境市民会議の取り組みに参加させてもらうことにした。

日頃、サークル活動でテニス、空手、ジャズダンス、吹奏楽、フラワーアレンジ、等

の活動に励んでいる若者たち16名が、一緒に汗を流した。空き缶や吸殻などは、思ったより少なく、植え込みの中の雑草の多さが目立ったようだ。梅雨明け後の連日の降雨という異常気象や温暖化の影響が出ているのかもしれない。

印象深かったのは、打ち水大作戦。気化熱による2℃の気温低下が、吹き抜ける風とともに実感できた。貴重な環境体験学習になった。豊かな環境を未来に残す取り組みに若者が参加する意義は大きい。



▲打ち水大作戦

## ストップ地球温暖化

地球 SOS 松林進

今、地球が温暖化で大汗をかき、その汗が方々で大洪水となって大災害をもたらし、私たち人間だけではなく動植物の生態系が、崩壊寸前まで来ています。この事を理性をもって考えれば、CO<sub>2</sub>を一切出さない循環エネルギーに変えていかなければならないことが理解されると思います。

循環エネルギーについては今の所、費用がかかりますので政治的解決が必要になってきます。今、国連やサミットでも最大級の問題として取り上げ、各国に啓発していますが、それぞれの国の都合で目標数値が達成できないでいます。しかしここで止めることはできません。この温室ガス削減は、日本の義務であり、又その技術力、資金力でイニシアティブを取っていくべきです。その為には政府が決めた2020年までに、15%の削減が達成できるよう皆で協力していきましょう。子供や孫たちの為にも化石エネルギーを一切使わないクリーンな地球を残しましょう。



## 「松枯れ対策」について

小泉寿彦

松枯れについては、いろいろのことが関係していると思います。その中で私は、切り捨て間伐後に激害が見られ、これは切り捨てられたアカマツにマツノマダラカミキリが多く発生し、いわゆる松くい虫の被害の発生源となり激害となったものと思っています。

「松くい虫対策の農薬空中散布」も効果はあると見ています。しかし、環境への多大な負荷や健康被害があるというこの頃では、農薬空中散布中止は適切と考えています。子どもの健康被害も現在はほんの一部であり、一部の先生が問題にしていることかもしれません。子どもの健康を守ることとアカマツを農薬散布により守ることとどちらが大事かは誰にでもわかる事だと思います。健康被害が多くなってからでは手遅れです。

戦後、針葉樹を多く植えすぎたためにいろいろな弊害が起きているのです。アカマツで言えばアカマツだけの集団を嫌い、集団を解くためにアカマツ自身が間引き、間伐し広葉樹を導入しようとしていると考えて、緑を守るためにアカマツと広葉樹の混交林でよいではないですか。なお、本来の樹種転換の意義を外れた、大きい木を切り小さな木を植える樹種転換をやめて自然に生えている在来の木を育てましょう。山に木があることが山林であり森林なのです。